



2020年11月13日

各位

会社名 株式会社ジャパンディスプレイ
 代表者名 代表執行役社長兼 CEO 菊岡 稔
 (コード番号：6740 東証一部)
 問合せ先 執行役兼 CFO 大河内聡人
 (TEL. 03-6732-8100)

特別損失の計上、第2四半期連結業績予想と実績値の差異及び通期売上高予想の修正
 並びに第3四半期の業績予想に関するお知らせ

当社は、2021年3月期第2四半期連結会計期間（2020年7月1日～2020年9月30日、以下「当第2四半期」）において、固定資産の減損損失及び事業構造改善費用を特別損失として計上しましたので、お知らせいたします。

また、2020年9月10日公表しました当第2四半期連結売上高及び営業損益の予想と本日公表の実績値の差異、及び2021年3月期通期連結売上高の予想の修正、並びに第3四半期の予想について、併せてお知らせいたします。

1. 特別損失の計上

当社は、昨年12月より有機EL（OLED）ディスプレイの量産出荷を開始し、徐々に出荷量を増やしておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、当事業の黒字化が当初の予定時期より後ろ倒しとなる見込みです。このため、生産ラインの帳簿価格を減額し、固定資産の減損損失10,278百万円を特別損失として当第2四半期に計上いたしました。その他固定資産の減損損失と合わせた当第2四半期の減損損失の合計は10,499百万円となりました。

また、2020年10月2日付「(開示事項の経過) 固定資産（白山工場）譲渡完了のお知らせ」にて、白山工場の生産装置及び設備のテスト稼働に伴う費用等最大33億円を2021年3月期第3四半期に事業構造改善費用（特別損失）として計上予定である旨お知らせいたしましたが、当該費用が確定し、2,589百万円を当第2四半期に計上いたしました。これにより白山工場の譲渡に係る費用の全額が当第2四半期までに費用計上されております。

上記の特別損失の合計13,088百万円は、本資料「2. 2021年3月期第2四半期業績予想と実績値との差異」に記載の実績及び本日発表の「2021年3月期 第2四半期決算短信」に反映されております。

2. 2021年3月期第2四半期業績予想と実績値との差異

(1) 2021年3月期第2四半期会計期間（2020年7月1日～2020年9月30日）

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社に帰属する四半期純利益
前回発表予想 (A)	110,000 ～120,000	△3,000 ～0	—	—
実績値 (B)	111,796	△2,872	△6,395	△20,000
増減額 (B-A)	1,796 ～△8,204	128 ～△2,872	—	—
増減率 (%)	1.6% ～△6.8%	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	147,341	△8,096	△12,122	△25,246

(2) 2021年3月期第2四半期累計期間(2020年4月1日~2020年9月30日)

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	197,999 ~207,999	△10,007 ~△7,007	—	—	円 銭
実績値(B)	199,795	△9,879	△15,195	△36,286	△15.59
増減額(B-A)	1,796 ~△8,204	128 ~△2,872	—	—	—
増減率(%)	0.9% ~△3.9%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	237,762	△35,169	△43,330	△104,159	△123.10

(3) 差異の理由

連結売上高及び営業損益の実績は予想レンジ内に着地いたしました。スマートフォン向けディスプレイの需要が伸び悩んだため、レンジの下限に近い水準となりました。

3. 2021年3月期通期売上高予想の修正

(1) 2021年3月期通期予想数値の修正(2020年4月1日~2021年3月31日)

	売上高	
	金額(百万円)	前期比増減率(%)
前回発表予想(A)	378,017~428,419	△25.0%~△15.0%
今回発表予想(B)	330,000~350,000	△34.5%~△30.6%
増減額(B-A)	△98,419~△28,017	—
増減率(%)	△23.0%~△7.4%	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	504,022	—

(2) 修正の理由

当期下期のスマートフォン向けのディスプレイの販売において、単価の低いパネル製品の需要が増加する一方、単価の高いモジュール製品の需要見通しが従来想定以上に減少いたしました。このため、売上高の予想を引き下げるものです。

4. 2021年3月期第3四半期業績予想(2020年4月1日~2020年12月31日)

(百万円)

	売上高	営業利益
2021年3月期第3四半期(累計)予想	269,795	△19,879
(ご参考)前年同期実績	387,775	△32,624

2021年3月期第3四半期累計期間(以下「当第3四半期累計期間」)は、OLEDディスプレイ、VR機器及びノートPC向けディスプレイの売上高増加により、ノンモバイル分野の売上高は前年同期を上

回る見通しですが、全売上高の過半を占めるモバイル分野においては、スマートフォン向けディスプレイ市場の競争激化及び顧客の有機 EL(OLED)採用拡大等により、前年同期比で大幅に減少する見通しです。また、車載分野の売上高も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で大幅に落ち込んだ第1四半期から第2四半期以降は回復を見せているものの、当第3四半期累計期間では前年同期を下回る見通しです。これらにより、当第3四半期累計期間の全社売上高は、前年同期を1,200億円弱下回る予想としております。

当第3四半期累計期間の営業利益は、19,879百万円の損失を予想しております。前期実施の構造改革による製造固定費、人件費等の固定費の削減及びその他経費削減の効果により、売上高は大幅減少も営業損失は約130億円縮小する見込みです。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいたものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上